

鉄道を利用した地域活性化について

磯部 直樹(21811029ni@tama.ac.jp)

1. 目的

高齢化や人口減少、車社会化などにより、厳しい状況下にあるローカル線を、地域ぐるみで活性化させる具体的な手法を見つけ、活性化につなげることが目的となる。

2. 現状

地方では、人口減少や車社会化が進み、ローカル線が生活に全く使われていないケースが多い。しかし、車に依存しすぎる社会は、高齢ドライバーの増加や、渋滞、環境問題などの点から昨今問題視されており、またローカル線が衰退することで、人口の流出や中心市街地の空洞化が起これ、地域の衰退に拍車をかけることになる。データで見ると、全国の地方鉄道会社の76%が赤字であり、2000年から現在まで、全国で41路線が廃止された。廃止の原因には、輸送人員の減少や、設備の老朽化、災害復旧困難などがある。

3. 事例

JR北海道が2016年に発表した資料に、「全路線の約半分が単独維持困難」というものがあつた。札幌圏以外では輸送人員が減少し、また北海道特有の、長大な線路の管理や雪対策などで費用がかさみ、2018年度の赤字額は179億円となつた。

一方で活性化に取り組み、成功したローカル線の例が、和歌山電鉄である。2003年頃は年間5億円もの赤字を出し、廃止が検討された路線であるが、

2006年より公設民営方式をスタートさせ、沿線住民に「知ってもらふ、乗ってもらふ、住んでもらふ」といった活動を行つてきた。2013年に猫の駅長「たま」が就任すると一躍話題となり、斬新な車両も相まって、今では海外から大勢の観光客が訪れる路線となつた。

4. 調査内容

活性化に取り組んでいるローカル線である、三陸鉄道を調査する。2019年春に全線開通し、被災地を元気づけたが、津波で流された沿線に人が戻つてこない状況にある。そんな中どう鉄道を活用し、活性化につなげていくのか。また、新しく街づくりをする上で、どんなことが重要か。フィールドワークとインタビューで調査を行う。

<参考資料>

- ・小嶋光信『地方交通を救え!』交通新聞社(2014)
- ・宇都宮浄人『地域再生の戦略』ちくま新書(2015)
- ・国土交通省『地域鉄道の現状』
<http://www.mlit.go.jp/common/001259400.pdf>
- ・JR北海道『当社単独では維持することが困難な線区について』
<https://www.irhokkaido.co.jp/press/2016/1611-18-3.pdf>